

## 第08回

- 講演者: 木村 正人 氏 (金沢大学)
  - 題目: 衝突と分裂を繰り返す多角形運動と雪の結晶モデルへの応用
  - 日時: 平成27年12月15日 (火) 16:30 - 17:30

辺の向きを保ったまま運動する平面内の多角形の時間発展モデルについて紹介する。これは、平衡形に近づく結晶運動のモデルとして Angenent-Gurtin(1989)およびJean E.Taylor(1991)で提唱されたクリスタライン運動が最初である。彼らは多角形の各辺にクリスタライン曲率(多角形曲率)を定義し、曲率流方程式の離散版に相当するものを考えたが、その後 Hele-Shaw流れの移動境界問題などにも拡張されている。今回の講演では、正六角形を結晶の平衡形とするクリスタライン運動において、辺の衝突や分裂を許した新たな多角形運動の枠組みを説明する。応用として、簡略化された雪の結晶モデルとその数値計算例を示す。本研究は田中智恵(金沢大学自然科学研究科数物科学専攻)との共同研究である。

From:

<https://wiki.ma.noda.tus.ac.jp/> - (旧)理工学部 数学科

Permanent link:

<https://wiki.ma.noda.tus.ac.jp/seminar/2015/008>

Last update: **2017/11/16 18:27**

